三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2019. 6. 17　No.2316　No.38

会長挨拶

三条南ロータリークラブ　会長

田代 徳太郎

Tokutaro Tashiro

皆さん、コンニチワ。38 回目の例会です。来週で 2018-2019 年度は終了しますのでこの会場では今年度最後の例会となりました。

きょうは創立記念例会です。「川瀬ガバナー年度を終えるにあたって」と題しまして、地区幹事の関川博様にお話をお願いしました。後程、宜しくお願いします。

さて、皆さんは「培養肉」という言葉を聞いたことがありますか。試験管とかシャーレとかにいれて「培養」するという意味の培養肉です。少し前、新聞に日清食品が東京大学との共同研究で「さいころステーキ状の牛の筋組織の作製に成功した」と書かれていました。肉本来の食感を持つ「培養ステーキ肉」の実用化に向けた第一歩を踏み出したとありました。

「いったいなんのこっちゃ」と思い読んでいくと、「培養肉」とは動物から採取した細胞に栄養を与えながら、体外で組織培養することによって得られた肉のことでした。動物を屠殺する必要がなく、地球環境への負荷が少ないこと、畜産のように広い土地を必要とせず、厳密な衛生管理が可能などの利点があり、従来の食肉に替ると期待されているとして、現在、世界中で「培養肉」の研究が行われているが、そのほとんどは「ミンチ肉」を作る研究だそうです。

2013 年ロンドンで世界初の人工肉（培養肉）のハンバーガーの試食会が開かれました。素材は牛の幹細胞をシャーレで培養して人工的に作ったもの。肉のジューシーさはないが赤身の肉という感じで普通のハンバーガーを食べたようだと参加者は語っていたそうです。1 個 3000 万円くらいのコストです。オランダの大学教授が世界的な食肉生産の需要に応えるための技術として提案したものでした。

日清食品と大学との共同研究はミンチでなく肉本来の食感を持つステーキ肉を「培養肉」で筋組織の立体構造を人工的に作る研究に成功したもので、約 1 センチ四方のサイコロサイズに作ったそうです。カップ麺に入っている具のサイズくらいでしょうか。今は採算の合うコストではないのですが、オランダや日本、アメリカなどが先行して研究しています。

それは世界の人口が 70 奥を超え、中国など新興国で食肉の需要が増加する中、懸念されているのが「たんぱく質危機」で、近い将来、肉の需要に生産が追い付かなくなる恐れがあること。また、家畜を出荷するまでには、大量の餌が必要で、現在でも世界の穀物生産の約半数が家畜用飼料となっていますが、南米の国々やオーストラリアでは牧草地や農地のため、大規模な森林破壊が行われていること、家畜を育て、餌となる穀物を与え、世界各地で農業用に汲み上げられる地下水は減少して水資源の枯渇も心配されています。家畜の飼育から、解体処理、輸

ロータリーに参加して楽しもう

四つのテスト

ー言行はこれに照らしてからー

Ⅰ 真実かどうか
Ⅱ みんなに公平か
Ⅲ 好意と友情を深めるか
Ⅳ みんなのためになるかどうか

Rotary　インスピレーションになろう

国際ロータリー会長　バリー・ラシン〔バハマ〕
第2560地区ガバナー　川瀬 康裕〔三条〕
第4分区ガバナー補佐　久住 勲夫〔分水〕
会　長　田代 徳太郎
幹　事　永桶 俊一
S A A　石山 昌宏

事務局
〒955-8666　三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店　内
TEL 0256-35-3477　FAX 0256-32-7095
E-mail　info@sanjo-minami.jp
U R L　http://www.sanjo-minami.jp

送に至るまで大量のエネルギーが消費されています。更に地球温暖化で世界の温室効果ガス排出の 18%は家畜からと指摘。特に牛は消化の過程で強力な温室効果ガスであるメタンガスを放出するため、牛の消化器官から大気へのメタン放出対策が求められています。まだ先のことですが、確かに地球の人口問題、食糧問題、環境問題などを解決するために研究が進めば、いずれ私達も「培養肉」を食べる時が来るのかもしれません。一方で人工的に生産された肉を食することには、安全性に不安を覚えたり、本物の肉にこだわる人も当然のこととしてあるでしょう。　会長挨拶を終わります。

出席者　48 名中 30 名　　先々週の出席率　83.72%（6/3）

ゲスト　地区幹事　関川　博 様（三条ＲＣ）

幹事報告

「最後の幹事報告です。1 年間ありがとうございました。」

永桶　俊一 幹事

●三条市青少年健全育成市民会議より

①「三条市青少年健全育成市民大会」の開催について（ご案内）

日時：　2019 年 7 月 14 日（日）午後 1 時～午後 3 時 30 分

場所：　三条市中央公民館大ホール　　**【クラブ協力事業】**

②「青少年健全育成県民大会」への参加について（ご案内）

日時：　2019 年 7 月 28 日（日）午後 1 時～午後 4 時

場所：　長岡市中之島文化センター　　申込：　7 月 17 日まで

●米山梅吉記念館より「創立 50 周年記念式典」のご案内

日時：　2019 年 9 月 14 日（土）午後 2 時より

場所：　：東レ総合研修センター（静岡県三島市）、米山梅吉記念館

登録料：10,000 円　　申込：　7 月 31 日まで

ニコニコボックス

6 月 17 日　￥10,000

今年度累計　￥569,000

地区幹事 関川君（三条ＲＣ） 川瀬年度は様ざまありましたが、皆様のおかげで間もなく終了です。すばらしい体験に感謝をしております。

田代君 本日は三条RCの関川様がお見えです。当初の南RCのスケジュールであった 6/3 の創立記念例会を本日に変更していただき、地区幹事をお勤めしてのお話を頂けます。宜しくお願いします。

永桶君 本年度地区幹事関川様、本日はありがとうございます。卓話宜しくお願いします。

野崎君 地区幹事関川様本日は宜しくお願いいたします。

馬場君 本日は地区の名幹事をお務めの関川さんから当クラブにお出かけくださりありがとうございました。この機会に表に出なかった裏話を期待しています。

西巻君 本日の当クラブ創立記念例会の卓話、地区幹事関川様有難うございます。BOXに協力して。

銅冶君、渡邊（光）君 BOX に協力します。

桑原さん BOXに御協力ありがとうございました。

卓話

「川瀬年度を終えるにあたって」

国際ロータリー第 2560 地区
2018-19 年度地区幹事　関川　博　様(三条RC)

川瀬ガバナー年度は、機長（ガバナー）不在のままテイクオフ。　未曾有の事態となった。　本日の卓話では、この事態をどう切り抜けたのか、また、そこで得られたロータリーという素晴らしい組織のことをお話させていただきます。

プロローグ　2016 年 6 月 29 日。それは、一本の電話から始まった。「中條だけど、少し時間あるか」中條パストガバナーからの電話であった。幸い、その日は在社日であり月末という事もあり、特に予定はなかった。来社された中條パストガバナーは開口一番「三条ロータリークラブからガバナーを選出するとしたら、君なら誰がいいと思うか」　驚きしか記憶にない。　ガバナーを選出するなど考えたこともなく、しかも私のような若輩者になぜ中條パストガバナーがお聞きになったのか。（中略）
藤田説量ガバナー以来 30 年ぶりのガバナー選出である。　一本釣りではクラブからの応援や後々の問題に対応できないこともあり、三条ロータリークラブでは「ガバナー選任委員会」を設立し紆余曲折の結果「川瀬康裕」を指名することとなった。

しかし、国際ロータリー定款では、ガバナーノミニーの資格要求として「クラブ会長を全期務めたもの」とあり、当時クラブ会長就任直後であった川瀬康裕はその資格がないことが判明するも、中條パストガバナーが日本事務局を通じ RI 会長へ「資格免除申請」を行なったのである。　前代未聞の申請であったが、ガバナー輩出困難な先進国で事例があったとのことで、RI 会長より直接「資格免除」の知らせを受ける。

正式に三条ロータリークラブでは川瀬康裕をガバナーノミニーとして推薦することとなる。　選出にあたり川瀬康裕は、「関川クラブ幹事を地区幹事することを条件」とされた。　「YES か、ハイしかない」といえども、若輩者であり入会６年目であり、地区役員などの経験もなく、私などに出来ようはずがないのであるが、「断ることなどできない、異様な空気」　今思うと、私が NO と言ったら川瀬康裕は受けなかったのだろうか。　それとも、私以外の誰かが地区幹事を拝命したのだろうか。

時に、地区では 2016 年6月 18 日に開催された「地区リーダーシップ研修会」にて、ガバナー選出困難な今日昨今、その大きな原因として継続委員会などの膨大な事務処理を都度設立されるガバナーエレクト事務所で行うことが困難を極め、それがガバナー選出を阻む原因としていた。　解決策は、ガバナー事務所を固定化した「地区事務所」の設立であり、継続委員会の事務およびガバナー事務を管理し実施するというものである。地区事務所を設立するにあたり、具体的な職務分掌や設置場所を検討するため 2017 年２月 25 日に、「地区事務所固定化等の作業部会」が発足した。　新保年度で試行し、川瀬年度で実運用するというものであった。

時に 2017 年４月 15 日は、三条ロータリークラブ 60 周年記念式典が開催された。　川瀬康裕は三条ロータリークラブ会長としての開催であった。　アトラクションは、川瀬康裕の三男であり同月免許皆伝を許された能楽師の川瀬隆士氏の初舞台であった。　本格的な能舞台であった。

地区事務所固定化（ガバナー事務所）という動きの中、川瀬康裕はガバナー事務所が当地に設立できないと、ホストクラブから支援をいただけないのではないかと懸念を抱き、急遽パルムマンションの川瀬康裕所有の一室でガバナーエレクト事務所を開設することとなった。　地区事務所は新保ガバナー事務所をそのまま移行し、ガバナー業務のみガバナーエレクト事務所（パルムマンション）で実施すると言う変則的な事態となった。　地区の方向性としては、最終的には地区事務所（ガバナー事務所）一箇所で、地区運営に関わる一切の事務作業を実施するという考えであった。　従来、ガバナーエレクト事務所２名、ガバナー事務所２名で地区としては事務員４名体制が予算化されていることから、新保ガバナー事務所２名がそのまま地区事務所となると、川瀬ガバナーエレクト事務所１名、次年度ガバナーエレクト事務所１名という事であれば帳尻が合うという考えで、川瀬ガバナーエレクト事務所設立を容認した。

現実は、厳しいものであった。　ガバナーエレクト事務所の立ち上げ、運用など未経験でありしかも、田中年度よりデータの引き継ぎは遅れ、手探りのスタートであった。　しかも、新人事務員にロータリーとは？から教育しながら、ガバナー補佐擁立、ガバナーエレクト事務所開所式、ガバナースタッフ会議、日本事務局との事務的手続き等々。　「分からないことが、分からず」　異変に気付いた新保年度の丹治芳子地区幹事に、新保年度のあらゆるデータをいただいたのは 10 月に入ってからであった。　本来なら 7 月に田中年度よりデータ提供されるはずが、手元に来たのは 10 月 23 日のことであった。

川瀬康裕は、ガバナーエレクト時代当地区を国際ロータリー基準に引き上げることを常々言われておりました。サンディエゴで開催される国際研修会に先立ち、世界各国から意識の高いガバナーエレクトが集結する２週間のホームステイプログラムへ参加するなど、ガバナーエレクトとして意欲的であった。地区リーダーシップ研修、地区リーダーシップ・プラン（DLP）によるガバナー補佐がクラブ協議会に参加する。　奉仕プロジェクト委員会。　今までにない取り組みを数々提案。　特に、ガバナー補佐によるクラブ協議会は RI が推奨している取り組みであり、強く要望したが多くの分区から反対意見が噴出し結果として従来通りの公式訪問プログラムを計画した。　地区運営会議では、従来からの慣例で三年三役会議、帰国報告会、諮問委員会そして本題の地区運営会議であるが、そこに外部講師を招き地区リーダーシップ研修を投入。　それも、多方面より軋轢を生む結果となった。　肝いりの奉仕プロジェクト委員会は、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会を一まとめにして「認知症に取り組む」と言う誤解が最後まで解けず、川瀬康裕の真意が伝わらなかった。
「認知症に優しい社会の形成を各奉仕委員会で話題とし、それを話し合う機会として奉仕プロジェクト委員会を設立する」　３委員会を合同委員会にしたのではない事が上手く伝わらなかった。

川瀬康裕の異変に気付いたのは、５月初旬のことであった。　それは、一本のメールから始まった。　地区研修・協議会では、スピーチも台本と大きく異なり、その後各セッションを巡回するも、「失敗」と言う言葉が連呼された。　川瀬康裕の容態が急変し、事態は大きく動いた。

このままでは、川瀬年度がスタートできない。　今更、ガバナーを変更できるはずもなく、病気の性質上非常にデリケート。　しかも、川瀬康裕の生業に影響を及ぼす危険性もあり、そのサポートには神経を費やした。

「もし、７月初頭からガバナー公務が不可能であるとすると、公式訪問をどうするか？」
６月 25 日新保ガバナーにより「ガバナー支援特別委員会」が結成され、様々な事態に対応できるプランを作成。　川瀬康裕の身分を保証しかつ、地区とホストクラブの名誉を保持する。　難しいミッション。

６月 28 日川瀬家より川瀬康裕病気休養を打診される。　療養し、地区大会には復帰を目指すとした。
６月 30 日新保年度感謝の集いで、なんとか地区フラッグ交換。　新保ガバナーより川瀬ガバナーエレクトへしっかりと地区フラッグは引き継がれた。

異例の公式訪問がスタートする。　クラブへ訪問する公式訪問はガバナー補佐が代行し、地区幹事が随行する。　ガバナー講話は、ＩＭにてパストガバナーが行う。　ガバナーとしての他の公務は新保副ガバナーが代行する。　気付くと、大反対を受けた川瀬康裕の公式訪問スタイルそのままである。
ガバナー補佐からは異論や苦言は一言もなく、皆さん立派にガバナー代行を行われた。　中でも、第３分区ガバナー補佐はご病気のためホストクラブ会長が代行。　ガバナーの代行の代行と言う異例中の事態を見事に切り抜けられた。　地区全クラブへ事情説明として臨時会長会議を開催。全クラブ会長が集結し、皆様の熱いエールに支えられたこともあり公式訪問はできる限りガバナー補佐の随行をすることを覚悟した。　地区の崩壊危機。　ホストクラブに恥をかかせてはいけないと言う責任。　何より川瀬康裕が復帰することを願っての公式訪問がスタートした。
「暑い夏だった。　必死だった。」
56 クラブ中 46 クラブへ訪問。　走行距離 6,500km。　同じ地区において、これほどクラブによって雰囲気が異なるのかと衝撃的。
100 名を超えるクラブから実働 3 名のクラブ。　クラブ会歌あり、始まりと終わりに二回のロータリーソング、R・O・T・A・R・Y 英語のロータリーソング。　握手タイム。　卓話と別に、５分間スピーチを３人。　12 時から銘々で食事を済ませ、12:30 から１時間しっかり例会。　クラブ専属事務局 32 クラブ、商工会議所事務委託 22 クラブ、ロータリアンが事務局 2 クラブ。　ホテルでの食事あり、お弁当あり。　ニコニコ BOX は数名が圧倒的。　例会の司会は親睦委員会で SAA は後ろで睨みをきかせて。地区各クラブの例会はそれぞれの特色があった。
クラブ協議会で特に、意見を求められたことは、会員増強と退会防止であった。　会員増強は、会員増員なのか会員強化（クラブ強化）なのかと尋ねてみた。概ねのクラブは、退会者の補充に苦慮しているか、自然減を懸念しての増員のことを意図している。　各クラブ必ず魅力的な要素を持っているがそれに気付かないことが原因。答えは、現況報告書に記述してあることが多い。　その素晴らしい取り組みを、情報発信していない。　自身の会社のホームページは素晴らしいもので、しかも SNS を駆使しているが、ロータリークラブのホームページは手付かず。　入会を誘う年代を聞くと、40 歳代と言う返答が圧倒的。では、その年代の人は誘いを受けた次のアクションはどうするか？必ずホームページを検索している。
訪問先の現況報告書から良い部分をクローズアップさせ、それをホームページに掲載することを提案した。　もし、ホームページがないなら地区のホームページに 56 クラブのページがあることを知らないクラブがなんと多かったか。
また、国際ロータリーの一員であることの認識が薄い。　2016 年に改定された国際ロータリー定款および細則に批准していないクラブが半数。　クラブ定款および細則は国際ロータリー定款および細則、ロータリー章典と矛盾しないことと規定されていることを、お知らせし啓蒙する。
My Rotary の登録を促すが、パソコンが苦手、その必要性を感じないとの返答が圧倒的。
そして、川瀬康裕が伝えたかったこと。
「社会的ニーズとしての認知症予防および認知症に優しい社会つくり」
「みんなのために良いことをしよう。　ロータリアンが率先し良いインスピレーションを地域社会に与え、地域社会で持続可能な良いことに取り組む」
私が訪問した多くのクラブでは、そのことに共感していただき認知症サポートセミナーを受講、地域で認知症セミナーを開催など、後に心温まる活動報告をいただいたことが何よりの成果。

川瀬ガバナー年度の大イベントであった「地区大会」は、前年の三条ロータリークラブ 60 周年記念事業、川瀬年度 PETS、川瀬年度地区研修・協議会を経験した三条ロータリークラブをホストクラブとして市内４ロータリークラブの総力で素晴らしいイベントとなりました。　この場を借りて、お礼申し上げます。
（ここまでの文面は、報告書形式とし、川瀬ガバナーは川瀬康裕と記述しました）

エピローグ、川瀬ガバナー年度は、ガバナーが不在という未曾有の事態でした。　川瀬ガバナー選出の立役者であった中條パストガバナーの突然のご逝去。　社会奉仕委員長の五十嵐昭一委員長のご逝去。　当年度のガバナー補佐お二人のご病気。　私自身も心が幾度も折れました。 そんな折、倒れそうな私をいつも支えてくださった方々のおかげでいつか「地区幹事をやらせていただいている」という気持ちに変化している自分に気づき、このお役目を拝命した感謝の気持ちで心が満たされました。
PETS、地区研修・協議会、地区大会、地区大会記念ゴルフ大会等に尽力尽くされた、ホストクラブの三条南ロータリークラブの皆様に感謝の言葉もありません。　心無い一言や、様々なご意見も頂戴しましたが、誹りも肥やしなり。　全ては修練だと思う気持ちを養うことができました。
ポールハリスが国際ロータリーの雑誌第１号にこのようなことを記述しています。
「広大なコロシアムの座席がロータリアンで埋め尽くされている。　中央にポールハリスが立つ、そして何か一言ロータリアンの大衆に向かって叫んで欲しいと言われれば、瞬時の躊躇もなく大声で　寛容　と叫ぶだろう」
川瀬年度で得たものは、ポールハリスが大切にした「寛容の精神」なのかもしれません。
年度終了間近の大切な、クラブ例会にお時間を頂戴したことに、田代徳太郎会長、永桶俊一幹事そして三条南ロータリークラブの皆様へ感謝を申し上げます。